



日本海を越えていく



三つの力

校長 佐藤雅秀

「猛暑」「酷暑」の文字が飛び交った今年の夏も終盤を迎え、8月30日から2学期がスタートしました。朝、元気に登校する子どもたちの姿を見て、暑いながらもそれぞれの夏を過ごすことができたのだなとうれしく思いました。また、1学期の終業式に約束した“元気な姿で2学期に会いましょう”を守ってくれたことに感謝し、2学期に子供たちとどんな学校をつくっていかうかなと今から胸をわくわくさせています。特に2学期は学校行事が多く、活動をとおして子供たちが成長する学期でもあることから、始業式の日に次のお願いを児童生徒にしました。

(中略)そんな皆さんの活躍が期待される2学期を迎えるにあたり、これからいう三つの力をキーワードに、学校活動を通じて心を鍛えてください。

一つ目は、「成信力(せいしんりきょく)」です。文字通り、成功を信じる力です。成功を信じ、ワクワク感を大切に心を育ててください。今、成功とワクワク感という言葉を出しましたが、心がワクワクするのは、成功したからワクワクするのではありません。ワクワクしたから成功に結びつくのです。間近に運動会が迫っていますので、常にワクワク感をもって準備し、運動会を成功に導きましょう。

二つ目は、「苦楽力(くらくりきょく)」です。自分や友達の成長を胸に、苦しいことを楽しむ力です。苦しみを乗り越えたところに本当の楽しみがあります。苦しい時こそ、その先にいる自分(苦しさを乗り越えた先の自分)を想像してみてください。

三つ目は、「他喜力(たきりきょく)」です。他者を喜ばせる力です。そのためには、周囲への気遣いや声掛けが大切です。他者への気遣いは必ず自分に返ってきます。他者を喜ばせるための工夫や行動が、新たな自分の可能性を見出すことにつながり、さらに可能性を広げることで自身の成長につながることを期待しています。

2学期は、この三つの力を育ててください。(始業式校長講話から引用)

我々学校としても、子供たちの成長のゴールをしっかりとイメージし、教育活動を進めてまいりますので、保護者や地域の皆様方の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、夏の話題をもう一つ。今年も熱戦が繰り広げられた夏の全国高校野球選手権大会は、神奈川県代表の慶応高校が107年ぶりに優勝するという快挙を成し遂げた大会でしたが、同時に自主性や自律性、頭髪、伝統、大応援などが話題となった大会でもありました。マスコミ効果もありますが、高校野球界も変革の時期を迎えたことを改めて実感させられました。

今夏も甲子園三昧の私でしたが、今年注目したのがアルプス席に掲示された横断幕です。保護者の願いや野球への情熱が綴られた横断幕と一体となった応援が、青空と相まって大きな渦となり、選手の背中をぐいぐいと押しているようです。「や・か・ぜ(やればできる・かならずできる・ぜったいできる)」(神村学園高校)、「一人一役全員主役」(八戸学院光星高校)、「仲間とは宝～苦戦しても敗戦じゃない～」(創成館高校)、「陸の王者 慶應義塾」(慶應義塾高校)等々。心を打つ、動かす、響くメッセージは正に金言。言葉のもつ力をまざまざと見せつけられた大会でした。

保護者の皆様の声から ～今年度1学期・新規留学生・保護者様の感想～

粟島には、毎年家族で海水浴に行っていました。その時に会った、馬のお世話に向かうしおかぜ留学生の皆さんから留学制度のことを知り、調べ始めた小学4年生の頃から2年半。期待に胸を膨らませ、念願だった粟島での生活が始まりました。実際に生活をしていると少し寂しくなる時もあり、家に電話がきたこともありました。でも1学期が終わるころには生き生きとした声で「毎日楽しいよ！」と聞くことが増えました。私達が粟島に行った際も、島民の方々から「かんたくん」と声をかけられ挨拶をする息子の様子に、可愛がられているのだなと安心しています。先生方からは、定期的に電話やメールで子供の近況を教えていただき本当に感謝しております。どの授業も体験も息子にとって他ではできない最高の経験となっています。2学期も、一瞬一瞬を大切に楽しんで過ごしてほしいと願っています。(中学1年 保護者様より)



娘が小学校3年生の時にテレビで知った「しおかぜ留学」。馬のお世話をしながら離島生活?! 親子で心が揺り動かされました。数年後、本当にしおかぜ留学してしまうなんて…人生は可能性が広がっていて、なんてすばらしいのだろう! と娘を見て感じます。まだ粟島生活は4か月程ですが、支えてくれる人、厳しく成長させてくれる人、喜びを与えてくれる人、沢山の出会いに戸惑い、笑い、苦しみ、喜びながら色々な感情としっかりと向き合い前に進む娘の成長を感じました。中学校生活が楽しく、先生方が好きだと笑顔で話す娘。

1年前は「夏休みが終わっちゃう…」とポロポロと涙を流していたのを思い出し、2人で爆笑した夏休みの終わりでした。今が楽しいから笑えるんだね。よかったね。戸惑い、立ち止まりながら、自分を信じて前進する娘の飛躍が今もこれからも楽しみです。日々、粟島での全ての出会いに感謝しております。

(中学1年 保護者様より)

「島に帰りたい」。夏休みに家に帰って来た娘の第一声です。この一言で、どれほど留学生活を楽しんでいるのかが分かりました。高校生が島留学をしている様子をテレビを見て、「私もやりたい」と娘が離島留学制度について調べはじめ、見つけたのがしおかぜ留学でした。親子共に不安や緊張のなかで始まった留学生活でしたが、思い切ってチャレンジして本当によかったと思っています。たくさんの方に見守られ支えられて、地元ではできない体験をさせていただいていることに、大変感謝しております。また、それぞれ目標をもってしおかぜ留学にチャレンジする仲間に出会えたことも、娘にとってとても大きなことだと感じております。2学期からまたたくさんの体験を通して成長してくれることを願っています。(中学1年 保護者様より)



去年の夏休み、しおかぜ留学の存在を知り、息子は留学する気満々でいましたが、私は「選ばれなかった時はどう励まそうか？」と留学できるのか半信半疑でいました。年が明け、しおかぜ留学生になれると知り、慌てたのは私の方でしたが、息子の固い決意を目の当たりにし、島へ送り出す決断をしました。初めは心配で一杯でしたが、帰って来る度に成長する息子の姿に、私の選択は正しかったと確信しています。島の方々の温かい眼差しの中で、自立心を養い、困難に立ち向かう勇気を身に付け、また、友人達との交流を通じて、異なる価値観を理解し、思いやりと共に、何事にも柔軟に対応できるようになっています。何より、帰ってきた彼からは、自信に満ちた笑顔と、将来への明るい展望が感じられ、中学1年生という多感な時期に、本当に良い経験ができた実感しています。島留学は、感謝と忍耐、そして優しさを根付かせ、彼の人生に掛け替えのないものを与えてくれています。心より感謝しています。(中学1年 保護者様より)



立派な発表と司会でした。

～わたしの主張村上・岩船地区大会から～



8月22日に村上情報センターで「新潟県少年の主張大会・わたしの主張村上・岩船地区大会」が開催されました。当校の代表である中学3年生の生徒は堂々とした態度で発表し見事、奨励賞に選ばれました。また、今回は栗島浦中学校が大会の司会を担当した二人も、見事にその大役を果たしました。3人のやりきったその表情が大会の大成功を物語っていました。



明るい未来

栗島浦村立栗島浦中学校 3年

ADHD。皆さんはこの言葉の意味を知っていますか？日本語に直すと、注意欠如・多動性障害と言います。この障害を持つ人は、動いてないと落ち着かない、集中できない、衝動的に行動してしまうといった症状が見られます。

私の親戚のA君にはADHDのような症状があり、学校でもいきなり動き出したり、家でも落ち着かなかったりします。例えば、とある日の学校で、A君はいきなり「防災訓練！」と言って授業中に、机の下に隠れたそうです。周りの友達はA君の行動に驚きはしたようですが楽しそうに笑っていました。しかし、やはり迷惑そうな目を向ける友達もいたようで、A君は周りの友達から少し避けられていました。先生もA君の行動には困っていたようで、普通の子に合わせようとしていました。また、病院などの公共施設でいきなり走り出したり飛び跳ねたりしてしまい、周りの人の迷惑になることも多々あります。そんな中、1人の女性が「どうして普通にできないの」と、ボソッとつぶやいていたのを聞いてしまいました。

私は、違和感を覚えました。先ほどの先生もつぶやいた女性も、どうして普通の型に当てはめようとするのですか？普通という型に当てはめるのはそんなに大切なことですか？ネットにも「ADHDの人めんどくさい」「ADHDの人邪魔」「いなくなったほうがいい」などと心無いことをいう人もいますが、ADHDである前に一人の人間なのです。どうしてそれがわからないのですか？なぜADHDの人の気持ちも考えず、そんなことをいうのですか？たとえ周りの人と少し違ってても、それはその人の個性ではないのですか？

集団主義の日本ではADHDの人や障害を持った人を普通の人の型にあてはめようとします。こんな世の中にA君は、「とても生きづらい」と、私に話してくれました。

私はどんな人でも、ADHDを持った人でも、生きやすい社会であってほしい。では、私は、私達にはどんな事ができるのでしょうか。

私は生きやすい社会を作るためには、理解するということが大切なのだと思います。日本の教育では、ADHDに関する授業などのADHDを理解する機会がありません。しかし、アメリカではADHDに関する授業などが多数あり、ADHDを理解している人がたくさんいます。このように、日本もアメリカのようにADHDに関する授業を取り入れ、幼い頃からADHDのことを理解することで、生きやすい社会につながると思います。また、ADHDは治らないというわけではありません。薬もありますし、落ち着きのない子に動ける時間を与える。少しだけでも自由な時間を与えることで集中力が上がるということもあります。また、椅子の脚にゴムのチューブをつけ、落ち着かないときにそれを踏んで落ち着けるような商品なども開発されており、様々な対応が取られています。

ADHDは病気であるとともに、その人の個性でもあります。普通の型になんてあてはめなくていいのです。だって個性なのですから。そんな他の人と少し違う個性を理解し、その人に会った対応をすることで少しでも生きやすい社会につながると思います。あなたの行動が、言動が誰かの支えとなり明るい未来につながっていく。そんなことを思っ

粟島が学校の始まりを待っていました

～夏休み中の様子から～



夏休みの学校は本当に寂しいものです。校舎を廻ってみても、児童生徒が一人もいない。教室や廊下はし～んとしていました。ただ、粟島の夏は本当に美しい。校舎から見る粟島の絶景は本当に感動です。そしてこんな酷暑の中でもひまわりが大きく育ち、ピロティーではラジオ体操の音が響いていました。酷暑であるこの夏も用務員の利一さんは、さつまいもの畑や花、木々に水やりを欠かさず、運動会に備えてグラウンドの草刈りに大量の汗をかき準備をしていました。学校を通り過ぎるおばあちゃんたちは、「やっぱり学校で元気な子どもたちの姿が早く見たいなあ～」と話されました。粟島が学校の始まりと子どもたちの笑顔を待っていました。

運動会がやってきます

～パネル発表の様子～



待ちに待った運動会がやってきます。子どもたちは、「届け！我らの情熱 解き放て！三十の想い」のスローガンのもと、自分たちで考え、話し合い、試行錯誤を重ね、時間と気持ちをかけて創り上げてきている運動会。どこにもない、どこにも真似できないすばらしい準備が着々と進んでいます。当日は、子どもたち一人一人が輝く、元気いっぱいの姿を是非とも御覧いただければと思います。

～保護者の皆様・村民の皆様へ～
令和5年度大運動会の御案内

○期日：令和5年9月9日(土)8:00～11:40
※雨天の場合は、翌日10日(日)に順延します。
○場所：粟島浦小中学校グラウンド
※10日(日)が雨天の場合は、体育館で実施します。
※今後の台風の影響により、9日と10日の両日に雨天が予想される場合は、9日に体育館で実施する場合もあります。